



かぜをひくと頭が痛くなるのはなぜ

かぜって何だろう

かぜをひくと、熱が出て、鼻やのどの具合が悪くなったりします。

かぜは一つの病気ではなく、鼻やのど、肺など、呼吸器官のねんまくにおきる、熱、痛み、はれをとともなう病気の、すべてを指しています。かぜの元になっているのは、ウイルスや細菌という、目に見えない小さな小さな生き物です。

ウイルスや細菌は、かぜをひいている人の口から出て、空気を伝わって、他の人の体に入ったり、ウイルスや細菌のついたものにさわった人の、手から入ることもあります。

かぜをひくと頭が痛くなるのは

かぜのウイルスが、鼻やのど、肺など、呼吸器官のねんまくにつくと、体が病気をなおそうとするはたらきを始め、その部分がはれて赤くなります。

はれて赤くなったところでは、ウイルスの死がいやウイルスの出す毒などが、血液の中に吸収されます。その血液が体内をまわって脳へ行き、脳の中の体温を上げるはたらきを調節する部分をしげきして、熱を出したりします。また、脳の中の痛みを感じずる神経をしげきして、頭痛を起こしたりもするのです。（監修・保志 宏）

